

2019年度(令和元年度) 関西創価中学校 学校評価

【教育基本目標】

<1> 読書と語学に力点を置き、主体的に学ぶ生徒の育成	【可能性の育成】
<2> 感謝の心を大切にし、励ましを第一とする生徒の育成	【心の育成】
<3> 創立者に学び、世界市民を目指す生徒の育成	【世界市民の育成】

【中期的目標】

〔Ⅰ〕教育理念に基づく「人間教育」の推進

- (1) 読書と語学に力点を置き、主体的に学ぶ生徒の育成
 - ・生徒の学びの励みとして、グローバルパスポートのさらなる活用をはかる。
 - ・英語、数学で策定したコアプログラムを進め、全生徒が卒業時に、英語検定3級、数学検定3級に合格する力を身につける。他教科の具体的な到達目標の策定も進める。
 - ・e-learning等を活用し、生徒の「自ら学ぶ」学習の定着を推進する。
 - ・支援教育の一環として、サポートプログラムをさらに充実させていく。
 - ・学級文庫の充実を図り、活用を広げ、読書活動を拡大する。
 - ・年3回のビブリオバトルの取り組みを充実させ、読書の楽しさの輪を広げる。
- (2) 感謝の心を大切にし、励ましを第一とする生徒の育成
 - ・話す力、聞く力、他者とつながる力を育む、「1分間スピーチ」を推進する
 - ・感謝の心を伝える「あいさつ運動」を推進する。
- (3) 創立者に学び、世界市民を目指す生徒の育成
 - ・「Future」「創立者とともに」のさらなる活用で、創立精神の学習の充実をはかる。
 - ・生徒会活動や三大行事の取り組みと連動した生徒主体の「全校対話会」を開催する。
 - ・社会で活躍する卒業生や草創期を知る先輩などを招いて講演会を開催する。

〔Ⅱ〕教育力向上への挑戦

- (1) 授業力向上の取り組み□
 - ・Findアクティブラーナー、Gacco等を活用した校内研修を積極的に行う。
 - ・「オープンクラスマンス」を行い、互いの授業を見学し、感想・意見を交換し合う。
 - ・「主体的・対話的で深い学びの実現」を研究テーマに掲げ、全校で取り組む。
- (2) 生徒ならびに保護者へのアンケート項目を年度当初に全教員で作成し、評価指標以上の達成をめざす
 - ・学期に一度以上、生徒一人ひとりの個人面談の機会を設ける。
 - ・i-checkにより、一人ひとりの状況を多角的に把握し、生徒理解、激励、「いじめ」の未然防止に活用していく。□
- (3) ICTを活用した振り返りを実施し、その結果をふまえ、さらなる意欲向上を目指す。

〔Ⅲ〕安全・安心への取り組み

- (1) ネットセミナー、防犯セミナーを実施し、SNS利用に潜む危険性を理解させるとともに、使用時のルールやマナーを徹底する。
- (2) 通学路の安全対策を強化し無事故を徹底するとともに、「学園生の誇り」を持った行動を常に確認し、登下校のマナーを向上させる。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は昨年から設問を3つ入れ替えた。(問3「学び合い、ICTの導入」、問7「いじめ防止プログラム」、問10「三大行事の取り組み」) ・問5「ビブリオバトル」と問8「毎朝の健康観察」については、全校的な取り組みとして定着してきている。 ・「安心安全の充実」の2問(問15、問16)については、「十分に当てはまる」がともに20ポイント以上改善しており、生徒のマナー向上に向けて更に取り組みを進めていきたい。 ・達成度が50%未満の割合が高かったのは、問1、問4、問12(40%超)と問11(20%超)の4項目であった。 ・問11に関して、本年度の研究テーマ「創価教育と道徳」については、道徳の教科化1年目に当たり、全員が学年で実施する授業の教案を2つ以上作成することになっていたこともあり、昨年度と比べ大きく改善している。 ・問1「グローバルパスポート」と問4「学級文庫」の取り組みについては、達成度が向上した教員と低下した教員の両極に分かれた。来年度については、図書館が新たに始める名作への挑戦を促す仕掛けと、グローバルパスポートを連動させることで認知度を高め、教科での利用底上げを図っていききたい。 ・最も達成度が低かったのが問12「外部研修への参加」であった。オンライン型の研修も紹介してみたが、昨年と比べて達成度30%未満が倍増している。来年度は校内研修との連動を図るなど、さらに工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が積極的に授業に参加し学び合っている姿や、ビブリオバトルの取り組みが素晴らしいと思いました。 ・授業時間内で生徒自身に到達目標を達成できるような工夫やフォローの余地があると感じます。 ・グローバルパスポートについては、まだ日常的に活用できているとは言えず、家庭とも内容を共有し「できたことを見える化するツール」として活用できればと思います。 ・登下校メールサービスの不具合でメールが届かなかったことが何度かありました。今後の改善をお願いします。 ・登下校のマナーですが、生徒本人も危険なので車、自転車に十分気をつけての行動をお願いしたい。 ・「外部研修への参加」については、たとえオンライン型であっても、日々の多忙さを解消しない限り無理があると思います。授業、クラス運営、その他の業務を洗い出し、優先順位をつけ他の人が代わられる業務は代わってもらい、できるだけ就業時間内で研修を受けられるよう、学校全体で取り組む必要があると感じます。 ・道徳の授業公開を参観し、多感な時期に全員で創立者の著書を学ぶことで充実した学びになっていることを実感しました。 ・保護者アンケートの回収率がやや低いのが気になりました。

【本年度の取り組みについて計画・実践・評価指標・自己評価】

中期的目標	今年度の重点目標	取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
教育理念に基づく「人間教育」の推進	(1)【可能性の育成】 ア. 生徒の「学びへの励み」を推進	グローバルパスポートを作成し、読書や資格試験、コンテスト等の取り組みを推進する	グローバルパスポートを活用推進において、6割以上の達成度を目指す	目標は未達成となったが、積極的に活用しようとする動きが見られるようになってきた。生徒のモチベーションアップにつながるよう改訂したい
	イ. 授業への「学び合い」・「ICT」の導入を推進	授業に「学び合い」・「ICT」を導入し、「主体的・対話的で深い学び」を促進する	授業への「学び合い」・「ICT」の導入において、6割以上の達成度を目指す	全体で9割弱の教員が取り組んでおり、今後、事例をシェアし合うなどしてブラッシュアップを進めたい
	ウ. 読書の習慣化	学級文庫の充実を図り、ビブリオバトルを学期に1回実施する	学級文庫の充実と読書推進において、6割以上の達成度を目指す	ビブリオバトルについては完全に定着している。学級文庫については、目標が未達成であり、もう一度テコ入れ図りたい
	(2)【心の育成】 ア. 特別活動の充実	生徒会活動や三大大行事と連動し、生徒主体の「全校対話会」を学期に1回実施する	全校対話会を通じて主体的な学びの場を設ける	全校対話会は、異学年交流の場として機能するとともに、上級生のリーダーシップ醸成にも有効であるので、今後とも継続していきたい
	イ. いじめを許さない環境作り	いじめを許さない雰囲気作りとともに、i-checkなどのツールも有効活用して、いじめを「芽」の段階で早期に発見し、チームで対処する	i-checkの振り返りを、関係者全員でシェアする	いじめ防止への取り組みには、8割を超える先生方が手応えを感じている。i-checkの読み取りについての研修も企画していきたい
	ウ. 心身ともの健康	毎日の健康観察と定期的なケースカンファレンスを実践する	健康観察ならびにケースカンファレンスを定期的実施する	目標は十分に達成できている。毎朝の健康観察は、新型コロナウイルス対策としても有用であった
(3)【世界市民の育成】 ア. 「創立精神学習」と「特別の教科 道徳」授業の融合と充実	「創立者とともに」「Future」も活用しながら、道徳授業を進める	道徳授業での活用において、6割以上の達成度を目指す	道徳との兼ね合いは悩ましいが、目標はおおむね達成できている。Futureについては、次年度、内容を大幅に見直す予定	
イ. 創価の心を育む	生徒との定期的な個人懇談を行い、生徒理解に努めるとともに「創価」の精神を育てる	定期的な個人懇談において、6割以上の達成度を目指す	給食後の食堂や、放課後の職員室前などで、教員が生徒と個人懇談を行っている姿が多くみられるようになり、定着してきている	
教育力向上への挑戦	(1) 授業力向上 ア. 「創価教育と道徳」のテーマに基づいた授業の実践	研究授業を実施し、全校で検討会を実施する	公開授業ならびに検討会の実施において、6割以上の達成度を目指す	G20開催に伴う休校要請により、年1回の研究授業となったが、2月の研究授業は盛況で、目標を達成した
	イ. 研修の推進	外部研修への参加推進と校内研修の充実に取り組む	外部研修への参加ならびに校内研修の充実において、6割以上の達成度を目指す	校内研修は月例化して充実してきているが、外部研修への参加数は伸び悩んでいる。次年度は更なる推進を呼びかけていきたい
	ウ. 授業改革への挑戦	公開授業を実施し、教科を超えた意見交換を行う	公開授業を通して、授業改革の実践において、6割以上の達成度を目指す	オープンクラスマンズが定着し、授業について考えなおす良い機会となっている
	(2) 評価 アンケートの充実	生徒ならびに保護者へのアンケートを実施する	生徒への授業アンケートで満足度向上において、6割以上の達成度を目指す	授業アンケートについては、2016年以降、毎年改善が見られ満足度が向上してきている
安全・安心の実現	(1) 防犯セミナーの実施	各種セミナーを実施し、ルールやマナーの徹底を図る	各種取り組みにおいて、6割以上の達成度を目指す	9割弱の達成度であったが、ネット関連のトラブルが散見されるため、継続的な取り組みをしていきたい
	(2) 登下校マナーの徹底	定期的な登下校指導を実施する	登下校指導の徹底において、6割以上の達成度を目指す	全員が週に1回は登下校指導に立つようになったが、苦情も絶えずあり、根気強く取り組んでいきたい

【まとめと改善点】

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の重点的な目標・指導計画・改善方策および学校運営のあり方について、以下にまとめました。

1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

学校教育目標においては、PDCAの観点より生徒ならびに保護者の声を反映した見直しを行い、さらなる生徒の健全な育成のため、より具体的な教育目標を掲げていく。

目標に示した各項目については、なお一層、その成果を上げるための計画および具体的な改善方法を検討し、教員全体への情報共有を徹底して、学校変革を推進していく。

① 教員の資質向上

教員の教育力向上のために人材育成の研修体制を整え、全教員が各自のテーマに沿った研究を進める。校内においても青年研修、生徒指導研修、生徒支援研修など定期的に開催する。また、公開授業や研修に役立つ総合情報ウェブサービスを導入し、個々の研修の機会拡大と充実を図る。

② 授業充実

生徒の主体性、積極性、創造力等を培うため、「主体的・対話的深い学び」の実践に取り組み、研修やセミナーへの積極的な参加、研究授業の実施、また公開授業の取り組みを通じて、教員間の情報共有をさらに深め、個々の授業力の向上をめざす。

③ 読書教育の充実

生徒全員が積極的に読書へ取り組み、ビブリオバトルも継続して開催する。また、授業での図書館の利用を積極的に進め、生徒を中心として学級文庫のさらなる充実を図る。全クラスでの「読書紹介」をテーマにした1分間スピーチを実践する。

④ 道徳の充実

「特別の教科 道徳」のカリキュラムを研究し、道徳授業の更なる充実を図る。また、創価教育の基本となる創立精神を学ぶため、アーカイブ資料を授業で活用できるよう推進する。

⑤ 生徒の評価活動の充実

生徒の「学び」への取り組みを総合的に評価するための「グローバルパスポート」を積極的に活用する。学びの分野をさらに拡大し、積極的に取り組める環境づくりを推進する。

2. 今後の学校運営のあり方

「最大の教育環境は教師自身である」とは「創価教育の精神」であり、教員の資質向上こそが「学校教育力」の基礎と言える。本校では創立精神や教育方針を根幹に据えつつ、生徒・保護者のニーズに応える教育活動を展開していきたい。そのためには、保護者ならびに学校を支えてくださっている関係者の方々による評価を謙虚に受け止め、常に改善に努めていく。また、教育内容の充実を一層図るとともに、教育目標が達成できるように計画を立案し、学校組織を整えていく。さらに、教員研修への参加を推奨し、教員の資質向上に努め、学校全体の教育力向上に一層努めていきたい。